

# GakuNin RDMの新機能と 周辺環境との連携

国立情報学研究所 込山悠介

琉球大学 研究データ管理セミナー

2024年2月15日 於 ハイブリッド



#### トピック

- ●研究データ管理基盤GakuNin RDM概要
- ●基本機能のおさらい
- 周辺環境連携
  - ストレージ連携
    - ●ストレージ接続方法
    - ●研究室でのデータ管理方法
  - 公開基盤連携機能(開発中)
- ●まとめ
- ●質疑



#### 研究データ基盤: NII Research Data Cloud

**ORCID** 

外部ID発行サービス

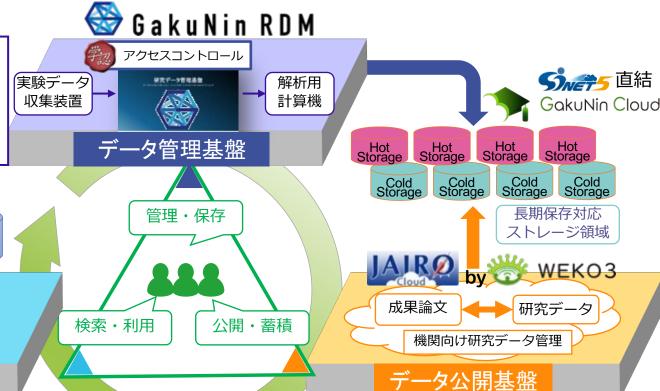
DOI

#### 2017年から開発開始 ⇒ 2021年から**運用開始**

- データ収集装置や解析用計算機とも 連携
- 研究遂行中の研究データなどを共同 研究者間やラボ内で共有・管理
- 組織が提供するストレージに接続した利用が可能

分野別 リポジトリ

Research



#### データ検索基盤

メタデータ集約・管理

知識ベースの構築

- 機関リポジトリ+分野別リポジトリや データリポジトリとも連携
- ・ 研究者や機関、研究プロジェクトの情報と関連付けた知識ベースを形成
- 研究者による発見プロセスをサポート

- データ管理基盤における簡便な操作で 研究成果の公開が可能
- 図書館員やデータキュレータによる、 メタデータや公開レベル統計情報など の管理機能の提供



#### 研究データ管理サービスGakuNin RDMとは?



GakuNin RDM (GRDM) は、国立情報学研究所 (NII) で運用している研究データ基盤NII Research Cloudの一部で、研究中のクローズド (非公開、制限共有) なデータを取り扱う事に特化したRDMサービス。2021年4月からは24時間365日オペレーターを配置した運用体制で全国の学術機関にRDMサービスを提供。

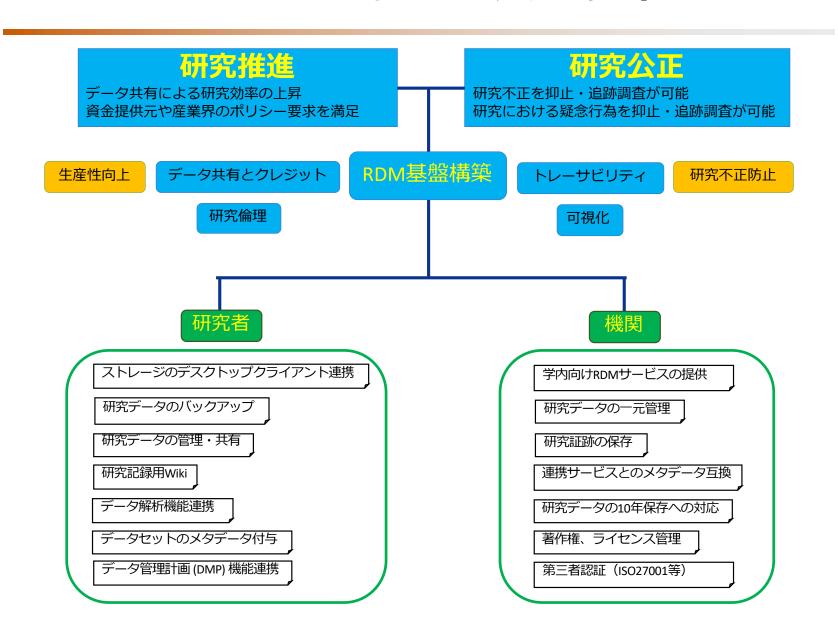


# 研究データ管理サービス GakuNin RDMの概要

基本機能のおさらい

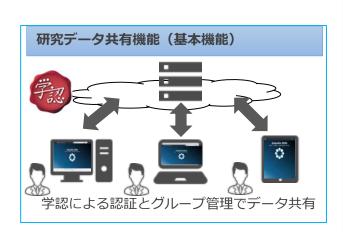


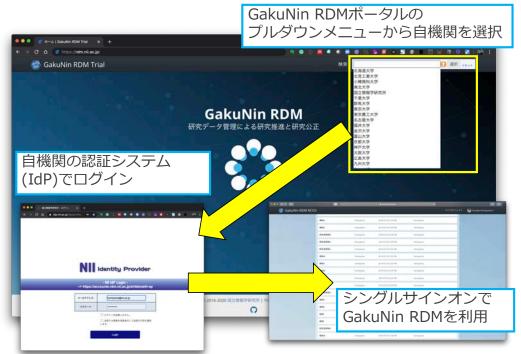
#### GakuNin RDMのサービス・ヴィジョン



#### 学認フェデレーション参加のIdPと連携可能 調達が不要でシステム導入が容易







GakuNin RDMでは、学術認証(学認)フェデレーションにサービスプロバイダ(SP)として登録済みのため、学認に参加していればアイデンティティプロバイダ(IdP)連携のみで導入が可能



### 研究データ管理プロジェクト画面



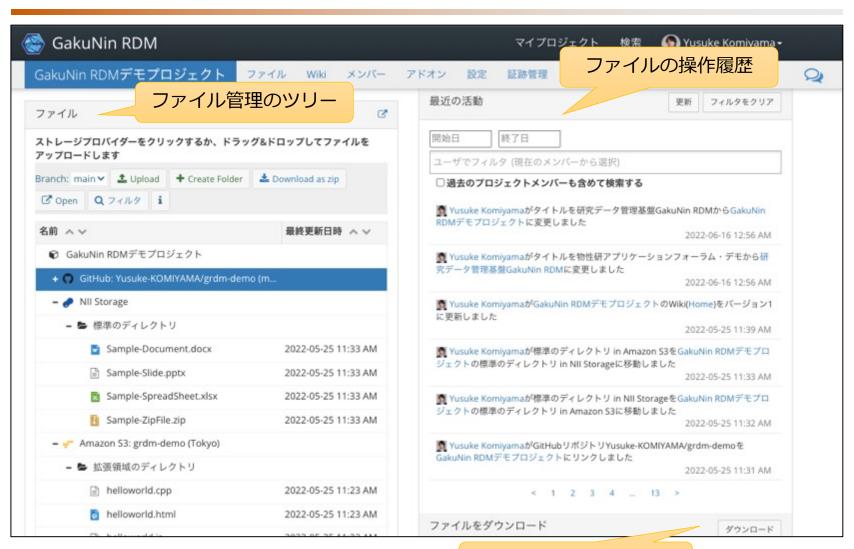


#### GakuNin RDMの研究プロジェクト管理画面





#### GakuNin RDMでのファイル管理と操作履歴



操作履歴のダウンロード



## プロジェクトの階層化

研究室でのデータ管理方法



#### 研究プロジェクトの階層構造化 (コンポーネント機能)

\*研究プロジェクト: (GakuNin RDMのデータ管理の単位)

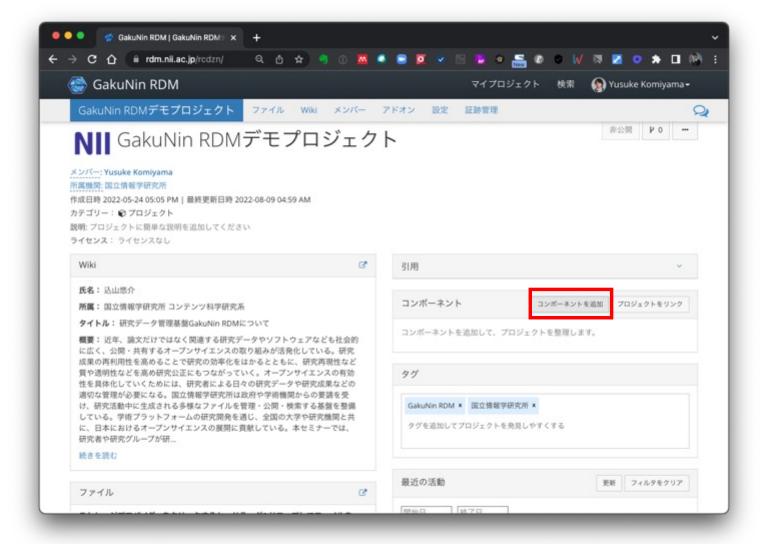
研究プロジェクト (親) 「〇〇研究室」

最初から研究体制・組織の階層化や管理部署が分かっている場合に便利

研究プロジェクト(子) 「2021年度・管理対象データ」 研究プロジェクト(孫) 「□□研究員・管理対象データⅠ 研究プロジェクト(孫) 「△△研究員・管理対象データⅠ 研究プロジェクト(孫) 「☆☆研究員・管理対象データⅠ 研究プロジェクト(子) 「2022年度・管理対象データ」

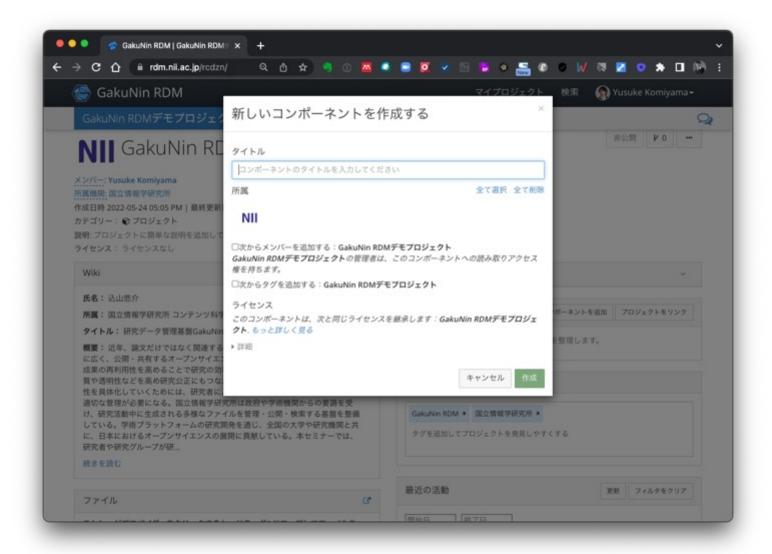


#### コンポーネントから 子プロジェクトを作成する



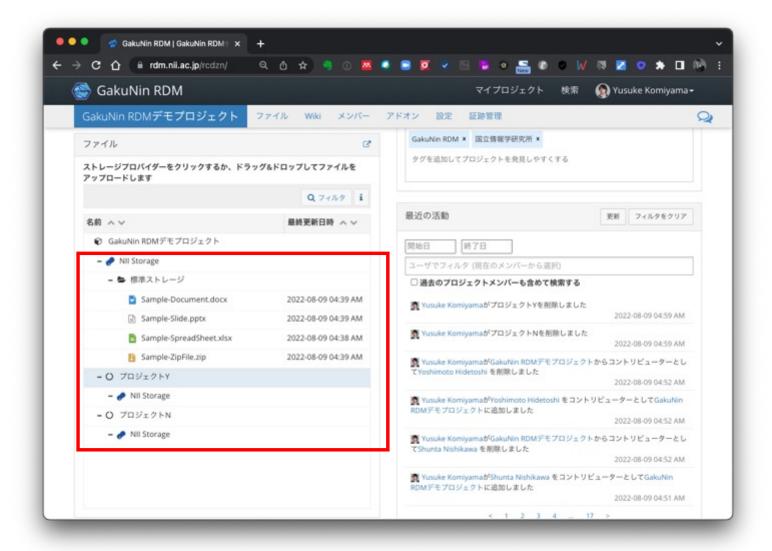


### 名前をつけて子プロジェクトを作成する



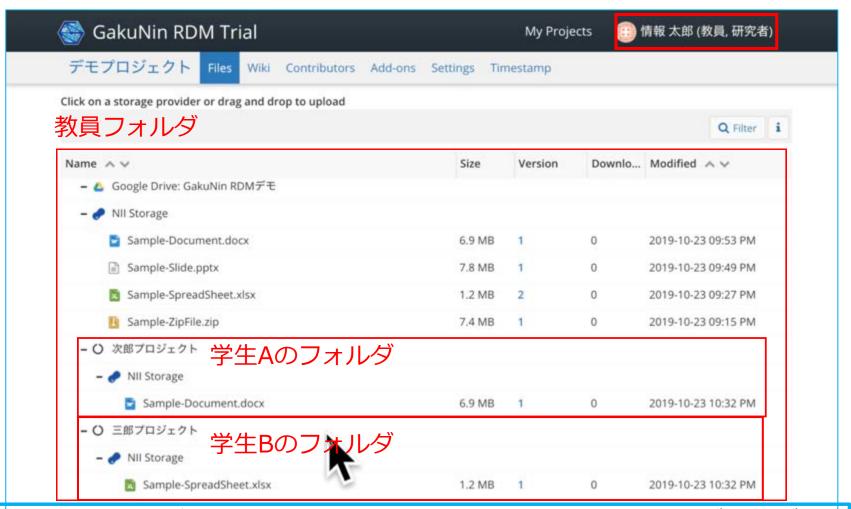


#### 親プロジェクトの配下に 子プロジェクトを作成





#### 研究室や共同研究者間でのデータ管理・共有



GRDMでは、標準で利用可能なストレージを提供、学内の研究者がWebブラウザ上で学内外の共同研究者とデータ共有・管理が可能。

プロジェクトの階層化も可能であるため、大型研究プロジェクトにも対応可。



#### 研究プロジェクトの集約機能 (リンク機能)

\*研究プロジェクト: (GakuNin RDMのデータ管理の単位)

研究プロジェクト(サブA)

「□□研究員・管理対象データ」

研究プロジェクト(サブB)

「△△研究員・管理対象データ」

研究プロジェクト(サブC)

「☆☆研究員・管理対象データ」

研究プロジェクト(サブD)

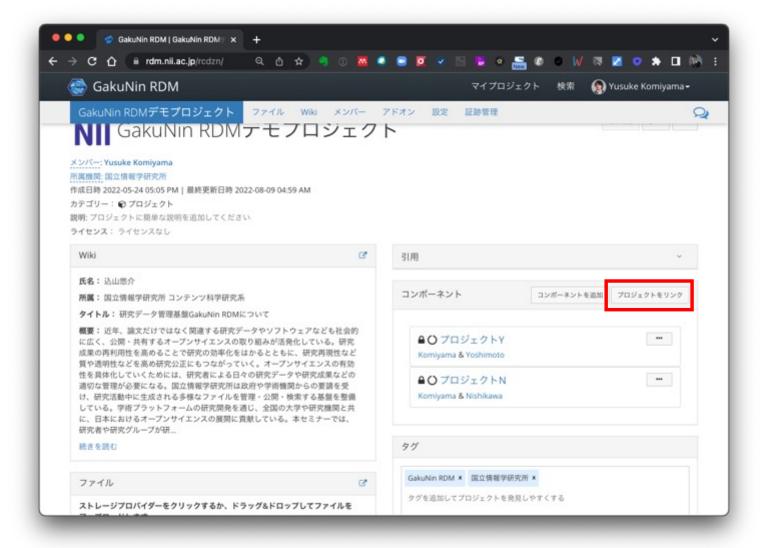
「☆☆研究員・管理対象データ」

既存のプロジェクトを特定の課題や 部署でまとめたい場合に便利

> 研究プロジェクト(メイン) 「研究データ管理部門」

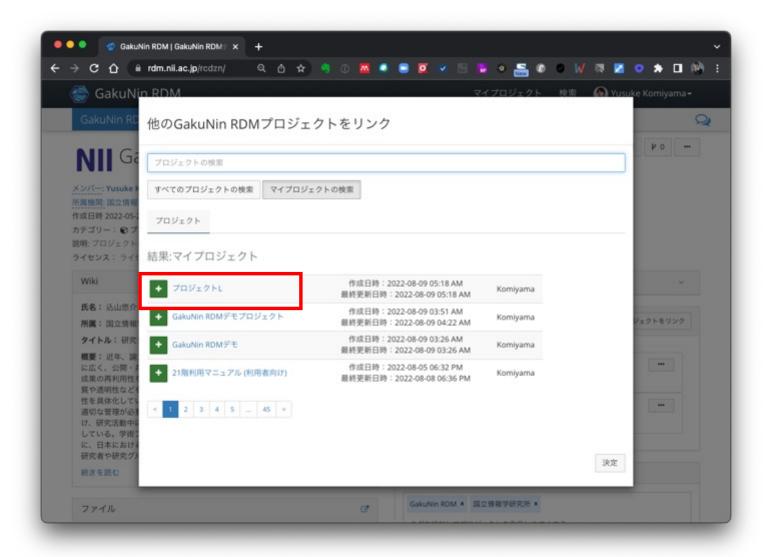


### リンク機能で散財するプロジェクトを集約



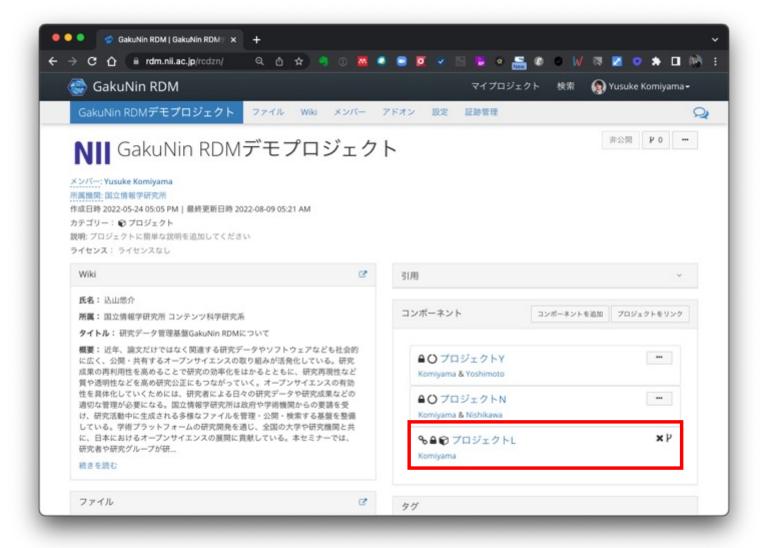


#### リンク元に紐付ける リンク先プロジェクトを選択





#### リンク元に紐付けられた リンク先プロジェクト





#### 研究プロジェクトのコピー機能 (フォーク機能)

\*研究プロジェクト: (GakuNin RDMのデータ管理の単位)

プロジェクト構成をそのままコピーして 条件に応じて編集したい時に便利

研究プロジェクト(メイン) 「2021年度□□プロジェクト」

> 研究プロジェクト(サブA) 「△△リーダ・管理対象データ」

研究プロジェクト(サブB)

「☆☆研究員・管理対象データ」

研究プロジェクト(サブC) 「☆☆研究員・管理対象データ」

<mark>→</mark>コピーした研究プロジェクト(メイン) 「Fork of 2021年度□□プロジェクト」

> 研究プロジェクト(サブA) 「△△リーダ・管理対象データ」

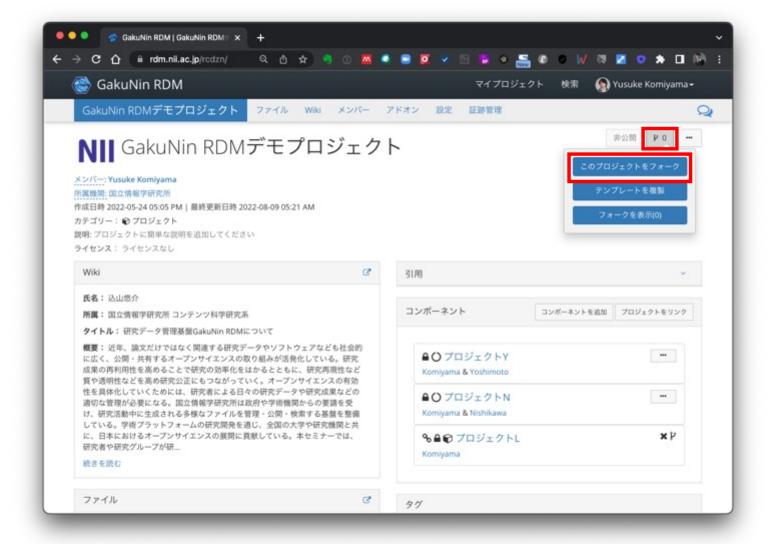
研究プロジェクト(サブB)

「☆☆研究員・管理対象データ」

研究プロジェクト(サブC) 「☆☆研究員・管理対象データ」

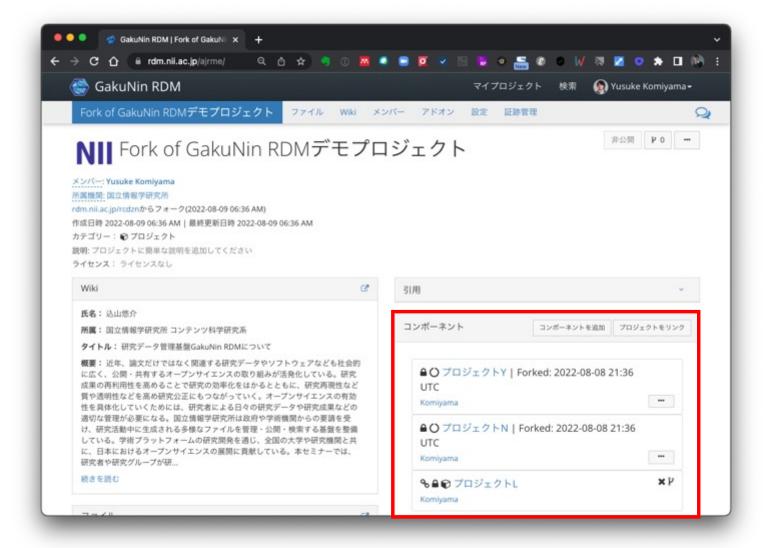


#### 分岐マークからプロジェクトの 階層化を保ったままフォークが可能



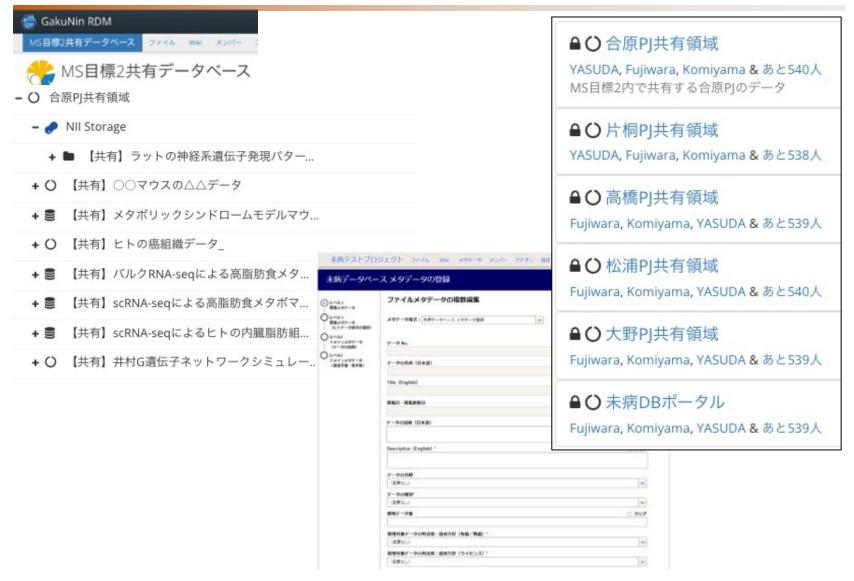


# フォークされたプロジェクトサブプロジェクトの階層やリンクも保つ



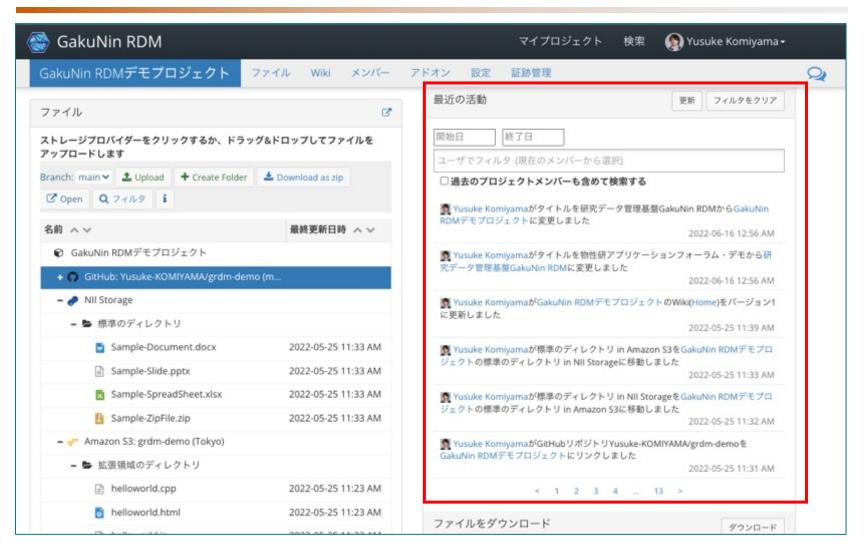


#### ムーンショット型研究開発制度 目標2未病データベース管理基盤





#### 研究活動の履歴



GakuNin RDMファイル管理と操作履歴



## ストレージ連携機能

周辺環境との接続



#### GakuNin RDMとクラウドストレージや 外部ツールとの連携で研究を促進



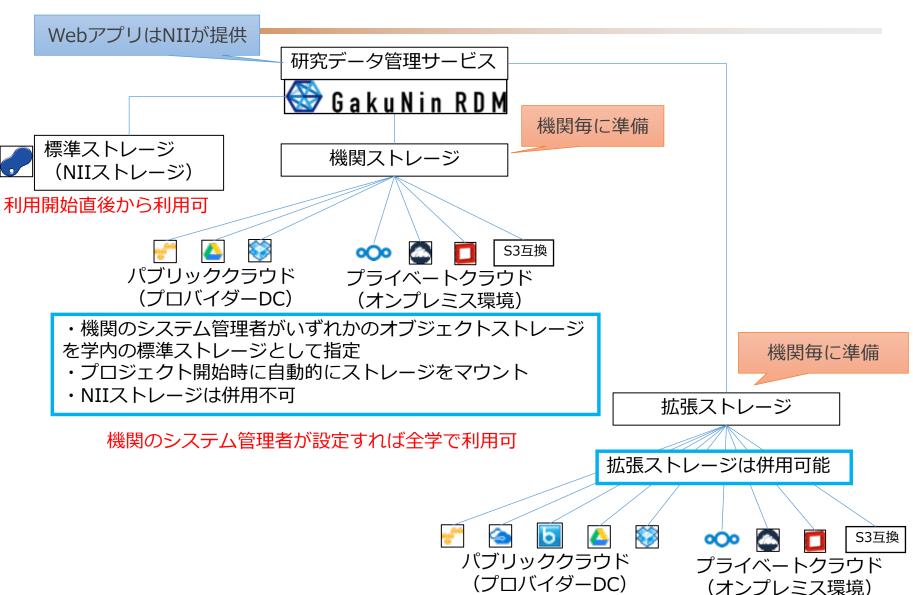
研究プロジェクトに様々な 外部クラウドサービスを 紐付けて管理



GRDMでは、NII提供分のストレージ以外にも、機関側で契約、所有しているパブリッククラウド、プライベートクラウドのストレージをAPIで接続して利用可能。



#### GakuNin RDM のストレージ種別



利用者(エンドユーザ)自身で設定すれば利用可能

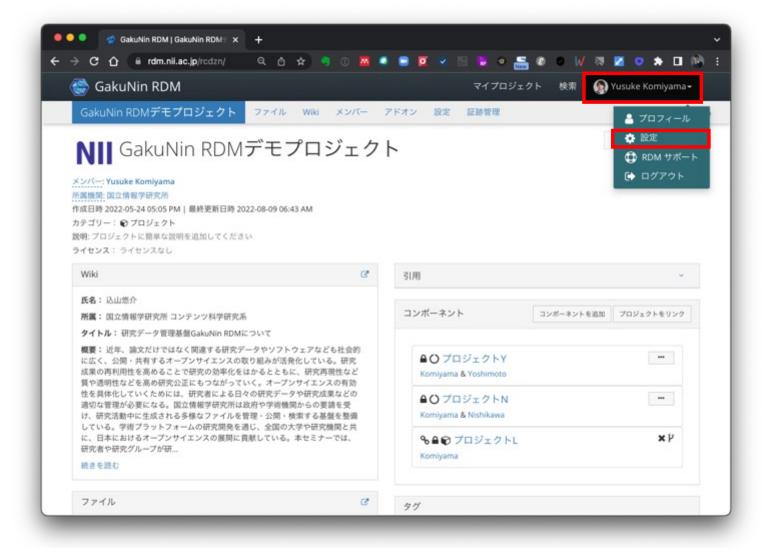


# ユーザ設定における 連携ストレージの認証

ストレージを接続してみよう

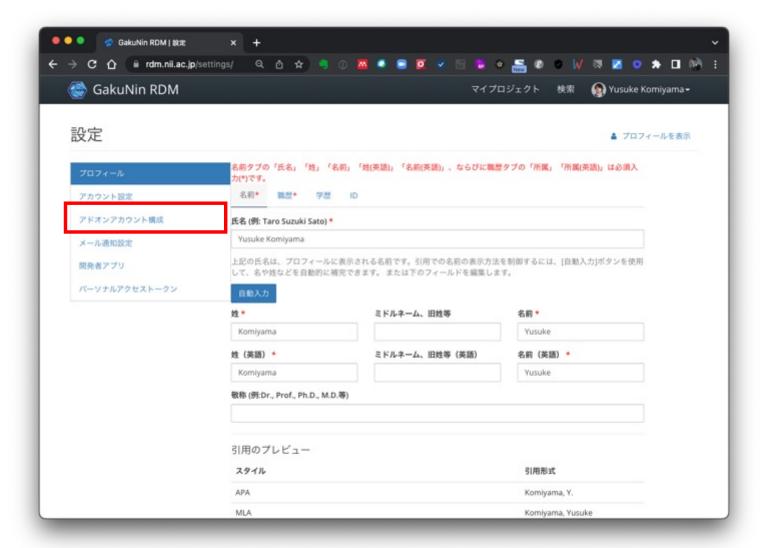


#### ユーザ毎の設定で接続する クラウドストレージの認証が必要



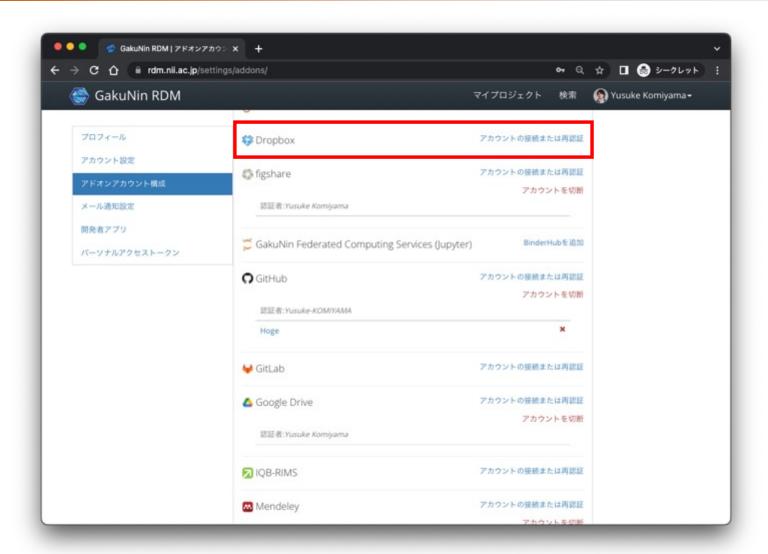


#### ユーザ設定画面



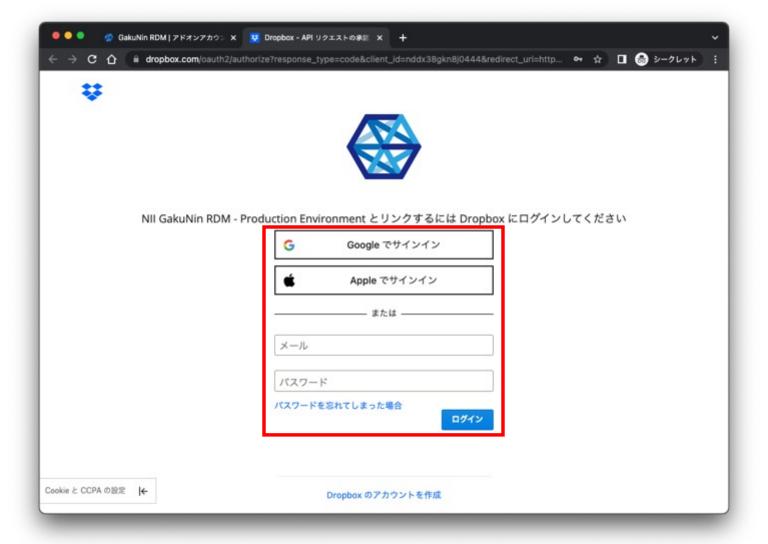


## 連携ストレージ認証前の状態



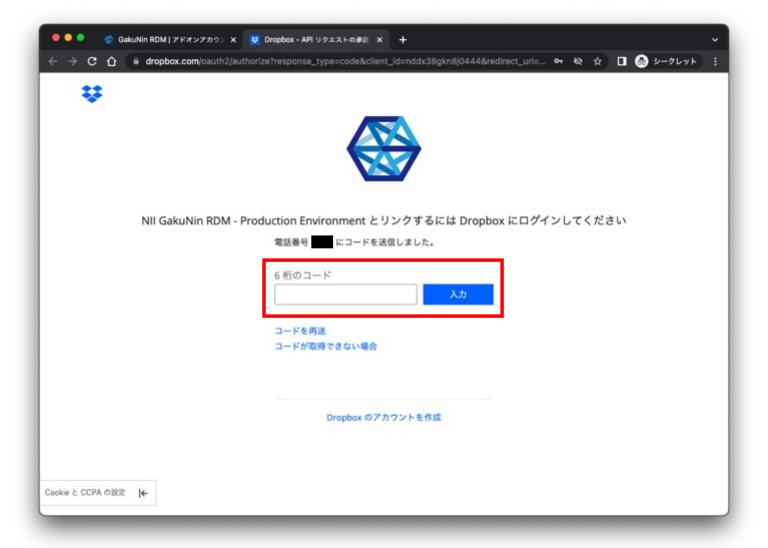


#### 連携ストレージでのOAuth認証



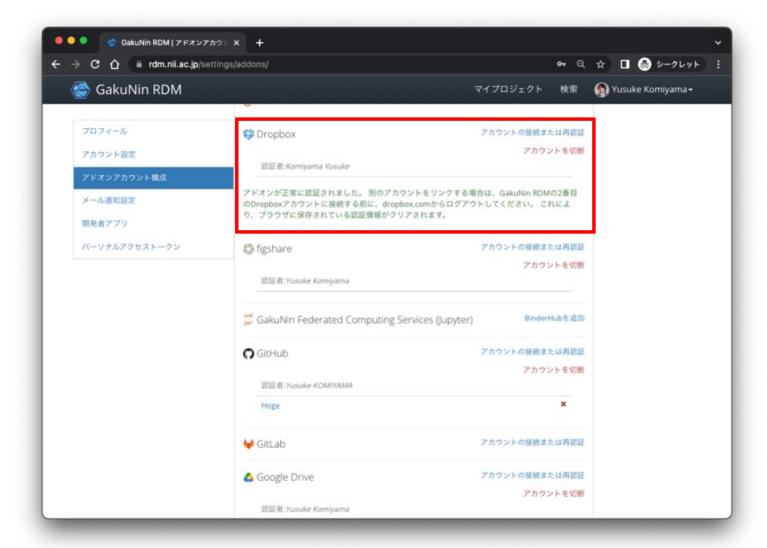


#### 連携ストレージでの多要素認証 \* SMSを要求された場合





#### 連携ストレージの認証が成功した場合の メッセージ

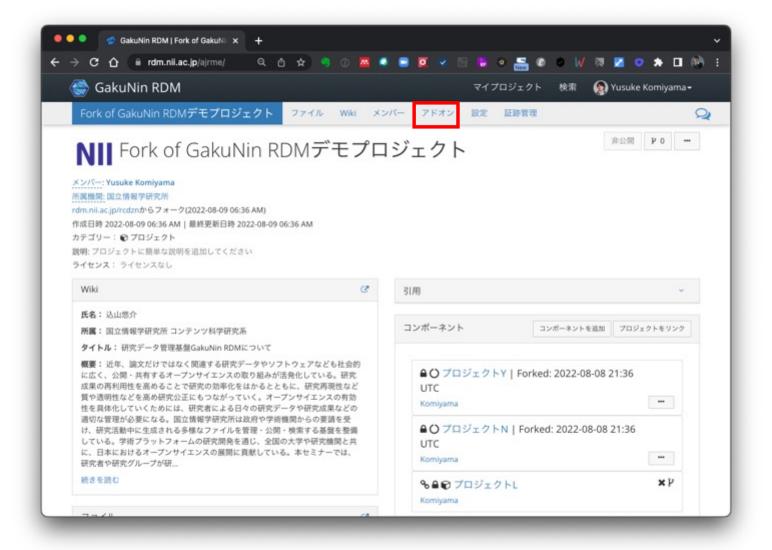




## プロジェクトへの 連携ストレージのフォルダ割当

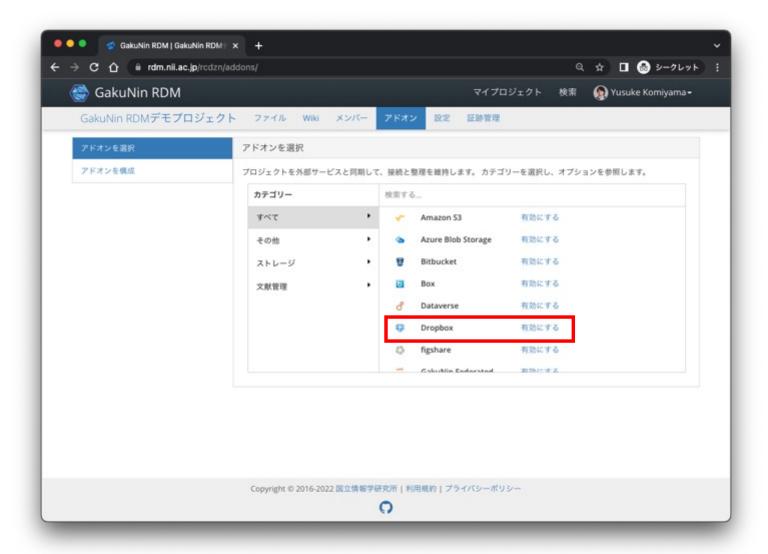
利用するフォルダを設定してみよう

# アドオンメニューからプロジェクトへDropbox のフォルダを割り当てる



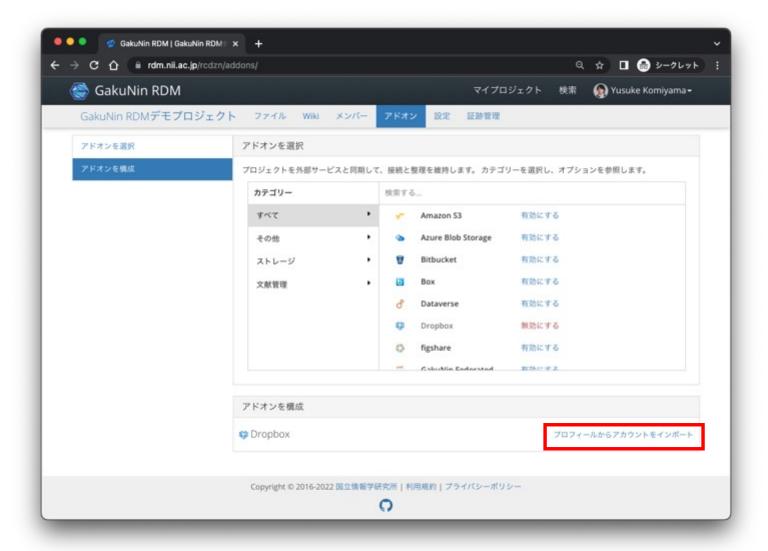


# Dropboxのアドオンを有効化



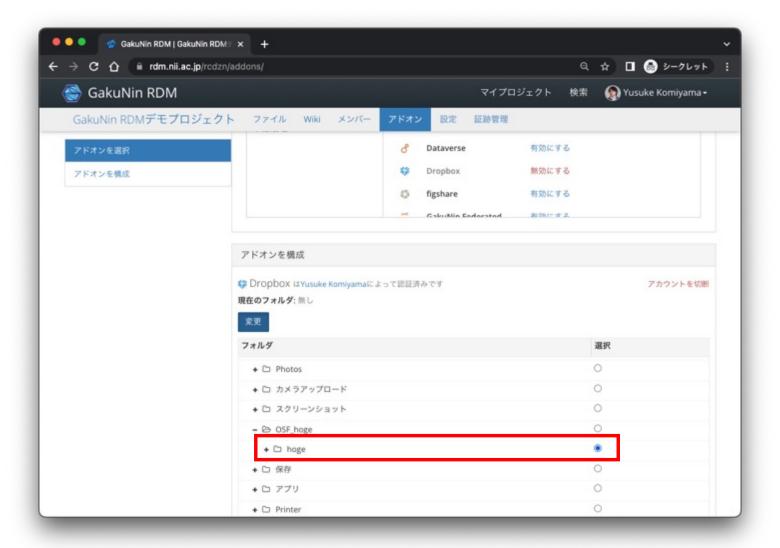


# 先に認証したプロフィールから Dropboxのアカウントをインポート



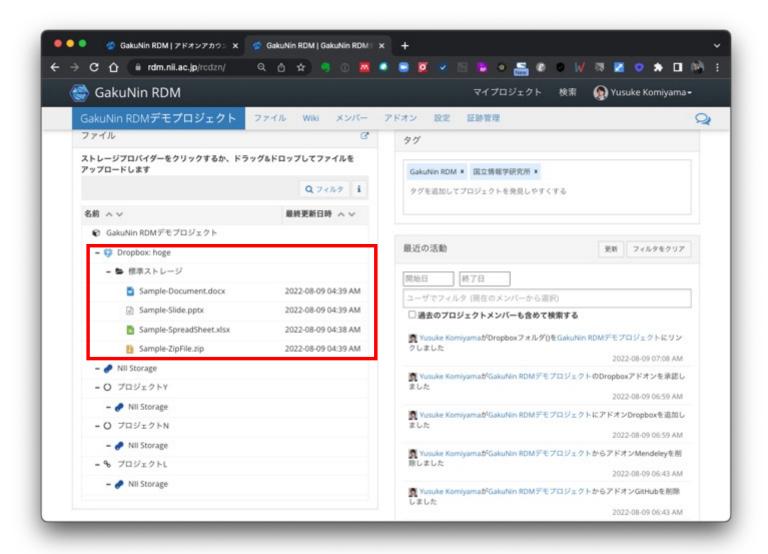


# ラジオボタンでプロジェクトと連携する Dropbox中のフォルダを選択





# ファイルメニューに接続済の Dropboxストレージが表示される





# GakuNin RDMを操作する コマンドラインツール

- コマンドラインツールのPythonコードをGitHubに於いて公開中
  - ファイル・フォルダのリスト・アップロード・ダウンロード 操作
    - https://github.com/RCOSDP/rdmclient
- 利用方法
  - ユーザ情報設定画面で生成される「パーソナルアクセストークン」と、GakuNin RDMプロジェクトの「GUID」を利用
    - 「パーソナルアクセストークン」はパスワード等と同様、 セキュアな管理が必須
  - 詳細な利用方法については、今後マニュアル等を整備してい く予定
  - 今後、コマンドライン機能を充実させ、プロジェクト作成・ ユーザ設定用のコマンドラインツールも提供予定

#### 実行例:ファイルリスト抽出

% export OSF\_TOKEN=「パーソナルアクセストークン」

% osf --base-url https://api.rdm.nii.ac.jp/v2/ -p [GUID] list -l

2023-09-29 21:26:59 57 osfstorage/sample.txt

2023-09-29 19:39:01 9 osfstorage/テストファイル.txt

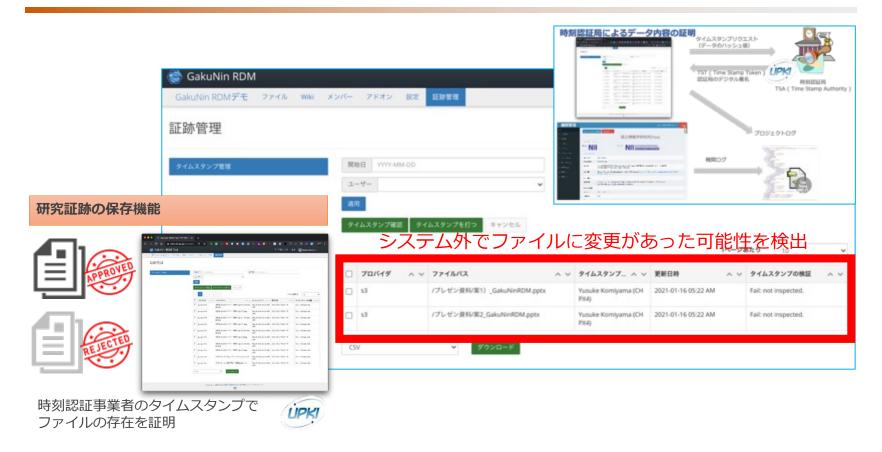


# 証跡管理機能

システム側でのデータ管理の仕組み

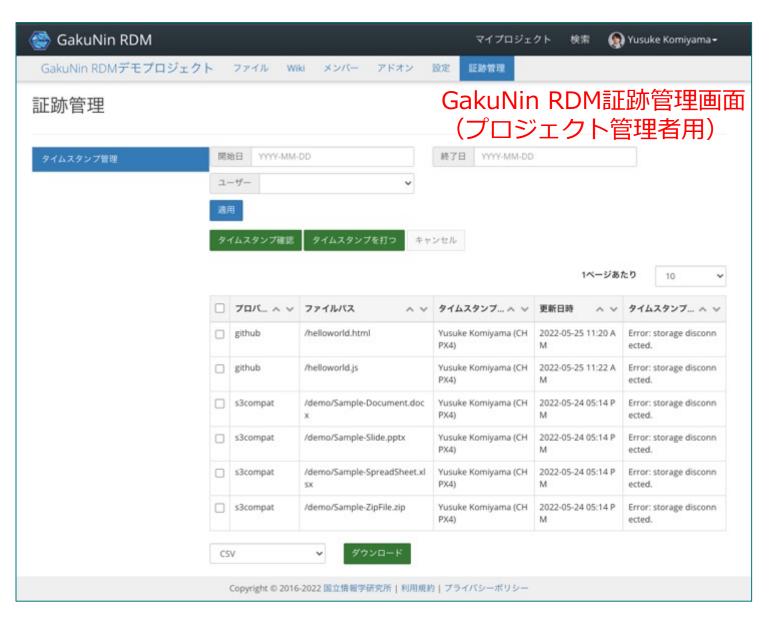


## 研究データの証跡管理機能で 研究不正を未然に防止



GRDMでは、システム中に保存されたユーザデータについて、 UPKIタイムスタンプサービスの時刻認証局サーバと連携。 ある時刻でのファイルの存在を証明。システム外でファイルが操作された 場合に検出され、研究主催者はダウンロードして確認することが可能。



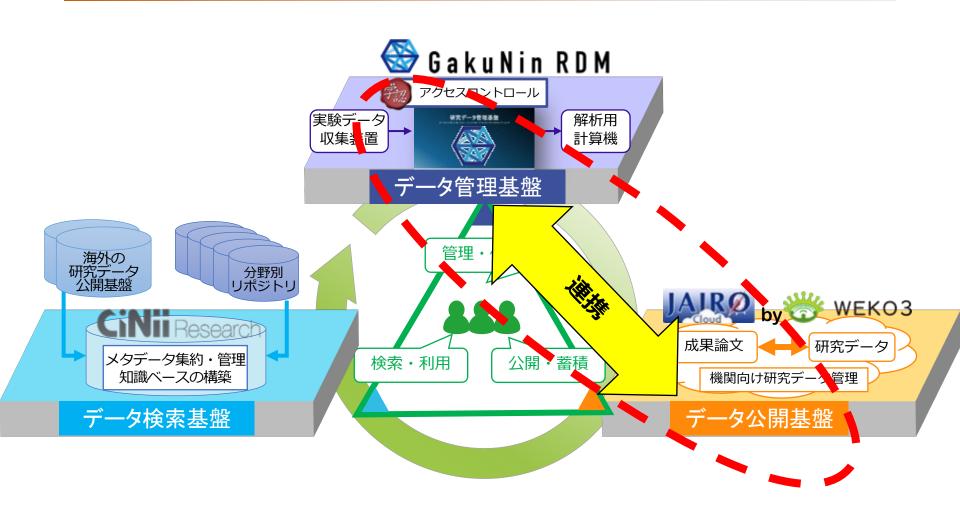




# 公開基盤連携機能



#### 研究データ基盤 NII Research Data Cloud





# 公開基盤連携機能 (リリース第1段)



公的資金による研究成果のデータを社会で利活用するため管理基盤で管理 されている研究成果データを公開基盤、検索基盤に連携する機能



# 管理一公開基盤連携のフロー概要

①プロジェクトを リポジトリのインデックスと接続





②ファイルのメタデータを登録



③ドラッグ&ドロップ操作で ファイルをインデックスに登録



④非公開アイテムとして登録、 確認後公開





#### JAIRO Cloud登録後の画面



GakuNin RDMからWikiへの登録後は、非公開状態で登録される。メタデータを確認し、公開状態にする運用を想定。



# GakuNin RDMサポートポータル





https://support.rdm.nii.ac.jp/



## まとめ

- ●国立情報学研究所が提供する研究データ 管理基盤GakuNin RDMのサービス内容 や基本機能について概説した。
- ◆特にストレージ等の周辺環境との連携について接続方法を紹介し、研究室でのデータ管理方法のモデルケースを紹介した。
- また、今後GakuNin RDMに実装される 公開基盤連携機能について、開発中の実 装イメージを紹介した。



# RCOS rcos-ext@nii.ac.jp